

# 海辺での体験に関する幼児保護者への質問紙調査

1714034 水野 清佳 (海洋スポーツ・健康科学研究室)

## I. 研究の目的

子ども、特に幼い就学前の幼児の場合、海辺での体験活動ができるかどうかは、子ども自身ではなく、保護者の意思によることが多い。保護者が納得し賛同してくれなければ、子どもたちは体験活動をすることができない<sup>1)</sup>。本研究では、幼児(4歳以上6歳以下)の保護者を対象に質問紙調査を行うことにより、保護者の海辺での体験や意識および、幼児の海とのかかわりについて分析し、幼児の海辺での体験を推進する上での課題を明らかにすることを目的とした。

## II. 研究の方法

東京都新宿区の「キッズタウン下落合保育園」に在籍する幼児の保護者を対象とし、紙媒体の質問紙またはGoogleフォームから回答してもらった。質問紙は、調査対象である保護者自身とその子どもの属性、保護者の海辺での体験に関する質問、海に対する意識やイメージ、幼児の海辺での体験および体験への期待、阻害要因などの設問から構成した。

## III. 結果と考察

質問紙は40通配布し25部を回収した。うち23部を有効回答として分析対象とした(回収率57.5%)。体験において数値が高かった項目は、保護者では「浜辺を歩く(95.7%)」「砂浜で遊ぶ(95.7%)」「水族館に行く(95.6%)」「家で家族と一緒に海の生き物の図鑑や本を読む(82.6%)」であり、幼児は「浜辺を歩く(87.0%)」「砂浜で遊ぶ(87.0%)」「水族館に行く(86.9%)」「家で家族と一緒に海の生き物の図鑑や本を読む(82.6%)」であった。これらの体験は、幼児と共に手軽に行動が可能な体験であると考えられる。海辺での体験の必要性を保護者に質問したところ、「とても必要である」「できれば必要である」と回答した割合が90%以上を示し、多くの保護者は海での体験が幼児にとって必要であると考えていることが推測できる。保護者が幼児の海辺での体験に期待することは「家ではできない体験をさせたい(95.7%)」「思い出をたくさん残してほしい(95.7%)」「自然との触れ合い方を知ってほしい(82.6%)」「好奇心旺盛な子になってほしい(87.0%)」であった。その幼児が海へ訪れることへの阻害要因に関して質問したところ、「近くに海がない」「子どもも親も時間的な余裕がない」の2項目が多く、約60%を示した。

## IV. おわりに

本研究の結果から、海に関連する体験である「浜辺を歩く」「砂浜で遊ぶ」「水族館に行く」「家で家族と一緒に海の生き物の図鑑や本を読む」の4項目は保護者と幼児ともに高数値であった。家ではできない、自然との触れ合いを期待している保護者らは、幼児における海での体験の必要性を認識しているが、距離や時間などの阻害要因があることが明らかとなった。

## 主な参考文献

1) 渡部かなえ, 海野義明: 保護者アンケートにみる幼児の海辺の自然体験活動で大切なこととその実現のための課題, 青山学院女子短期大学紀要, 第67輯: 115-126, 2013.